

令和5年度滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 令和5年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ33校48科、定時制課程1校1科。特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程のべ18校18科であった。
- 推薦選抜、特色選抜合わせて5,996人（スポーツ・文化芸術推薦選抜143人を含む）が出願し、3,133人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.04倍であった。また、出願変更率は5.7%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】> ※（ ）は前年度であり、以下同様。

- 1 出願状況
 - 募集枠 2,193人
 - 出願者数 2,211人 出願倍率：1.01倍（1.05倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 2,211人
 - 入学許可予定者数 1,986人 合格率：89.8%（86.3%）

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 1,158人
 - 出願者数 3,785人 出願倍率：3.27倍（3.36倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 3,777人
 - 入学許可予定者数 1,147人 合格率：30.4%（29.9%）

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 183人
 - 出願者数 143人 出願倍率：0.78倍（0.87倍）
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 143人
 - 入学許可予定者数 139人 合格率：97.2%（87.1%）

<一般選抜・学力検査>

- 1 出願状況
 - 出願者数 6,888人（7,056人）
 - 確定出願者数 6,843人（7,010人）
 - 確定出願倍率 全日制1.06倍（1.09倍）、定時制0.57倍（0.53倍）
全・定合わせて1.04倍（1.07倍）
- 2 出願変更状況
 - 出願変更者数 395人 このうち45人は出願辞退者
 - 出願変更率 5.7%（6.3%）
 - （1）学科別出願変更率では音楽学科が100%と最も高かった。（前年度は音楽学科の20.0%）
 - （2）学校出願を除く普通科の出願変更者数は242人で、出願変更率は6.0%（6.0%）
- 3 受検状況
 - 受検者数 6,828人 受検倍率 1.04倍（1.06倍）
 - 全日制6,675人 1.06倍（1.09倍） 定時制153人 0.57倍（0.52倍）
- 4 入学許可予定者
 - （1）学力検査による入学許可予定者数 6,040人 合格率88.5%（87.5%）
 - （2）入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および小学科 26校29学科（26校30科）

<二次選抜>

- 1 二次選抜募集の学校・学科および募集定員
全日制21校23科399人、定時制5校6学科116人。全・定合わせて26校29学科515人
- 2 出願状況 出願者数 98人 出願倍率 0.19倍（0.21倍）
- 3 受検状況 受検者数 97人 受検倍率 0.19倍（0.20倍）
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 94人 合格率 96.9%（96.9%）

<入学許可予定者総数および実入学者数>

- 1 入学許可予定者総数 9,267人
- 2 実入学者数 9,266人
- 3 定員充足率 95.7%（96.2%）

令和5年度滋賀県立高等学校入学者選抜
結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和5年度滋賀県立高等学校入学者選抜 結果のまとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・ 1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	・・・ 1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・ 2
	(3) 一般選抜の結果	・・・ 2
	(4) 入学者選抜の結果	・・・ 3
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	・・・ 4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・ 5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・ 5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	・・・ 6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	・・・ 7
2	配点等	・・・ 7
3	検査成績	・・・ 7
4	その他	・・・ 7
	【各教科の分析】	
	国 語	・・・ 8
	数 学	・・・ 10
	社 会	・・・ 12
	理 科	・・・ 14
	英 語	・・・ 16

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日時の課程の32校（普通科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月7日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中96校（昨年度106校中96校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は9校（昨年度22校）であった。全日時の出願者数は、普通科で781人（昨年度790人）、農業学科で192人（昨年度203人）、工業学科で325人（昨年度333人）、商業学科で331人（昨年度325人）、家庭学科で82人（昨年度87人）、体育学科で45人（昨年度50人）、美術学科で28人（昨年度60人）、総合学科で414人（昨年度438人）であった。定時制は普通科の13人（昨年度15人）となった。この結果、出願者数合計は、2,211人（昨年度2,301人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日時の普通科では1.01倍（昨年度1.02倍）、専門学科で1.09倍（昨年度1.16倍）、総合学科では0.85倍（昨年度0.90倍）、定時制の普通科は1.08倍（昨年度1.25倍）となり、実施学科全体では1.01倍（昨年度1.05倍）であった。この結果、1,986人が入学許可予定者となり、合格率は89.8%（昨年度86.3%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中102校（昨年度106校中101校）、県外の中学校は21校（昨年度11校）であった。出願者数は、普通科で3,656人（昨年度3,767人）、理数学科で82人（昨年度85人）、音楽学科で19人（昨年度23人）、文理探究学科で28人（昨年度26人）であった。この結果、出願者数合計は3,785人（昨年度3,901人）となり、出願倍率は、普通科では3.42倍（昨年度3.49倍）、専門学科では1.43倍（昨年度1.68倍）となり、実施学科全体では3.27倍（昨年度3.36倍）であった。この結果、1,147人が入学許可予定者となり、合格率は30.4%（昨年度29.9%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,133人が入学許可予定者となり、合格率は52.3%（昨年度50.8%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			割合(%)	人数A'						
推薦選抜	普通科	2,640	20~30	776	781	781	1.01	726	93.0	
	普通科(定)	40	30	12	13	13	1.08	12	92.3	
	専門学科	農業	400	50	200	192	192	0.96	179	93.2
		工業	720	50	360	325	325	0.90	311	95.7
		商業	520	50	260	331	331	1.27	252	76.1
		家庭	80	40	32	82	82	2.56	32	39.0
		体育	40	85	34	45	45	1.32	34	75.6
		美術	40	75	30	28	28	0.93	28	100
		小計	1,800		916	1,003	1,003	1.09	836	83.3
	総合学科	1,240	30~40※	489	414	414	0.85	412	99.5	
合計	5,720		2,193	2,211	2,211	1.01	1,986	89.8		
特色選抜	普通科	3,560	30	1,068	3,656	3,649	3.42	1,068	29.3	
	専門学科	理数	80	50	40	82	81	2.05	40	49.4
		音楽	40	75	30	19	19	0.63	19	100
		文理	40	50	20	28	28	1.40	20	71.4
		小計	160		90	129	128	1.43	79	61.7
合計	3,720		1,158	3,785	3,777	3.27	1,147	30.4		
総合計	9,440		3,351	5,996	5,988	1.79	3,133	52.3		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜の追検査受検者を含む。

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通科11、専門学科6、総合学科3）のべ20校）であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通科4）であった。

受検者数143人に対して、入学許可予定者数は139人となり、受検者数に対する合格率は、97.2%（昨年度87.1%）となった。

(3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,554人に対し、確定出願者数は6,843人であり、確定出願倍率は1.04倍であった。また、受検者数は6,828人であり、受検倍率は1.04倍であった。この結果、6,040人が入学許可予定者となり、合格率は88.5%であった。

二次選抜は、二次選抜定員515人に対し、受検者数は97人であった。この結果、94人が入学許可予定者となり、合格率は96.9%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	
		令和5年度	令和4年度
学力検査	学力検査定員 A	6,554	6,576
	出願者数	6,888	7,056
	確定出願者数 (倍率)	6,843 (1.04)	7,010 (1.07)
	受検者数 B (倍率)	6,828 (1.04)	6,994 (1.06)
	不合格者数 B-C	788	877
	入学許可予定者数 C	6,040	6,117
	合格率 C/B (%)	88.5	87.5
二次選抜	二次選抜定員	515	475
	出願者数	98	99
	受検者数 D (倍率)	97 (0.19)	97 (0.20)
	不合格者数 D-E	3	3
	入学許可予定者数 E	94	94
	合格率 E/D (%)	96.9	96.9
入学許可予定者数合計 C+E		6,134	6,211

※上記には、学力検査の追検査受検者を含む。

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,267人であった。全日制では募集定員9,400人に対して入学許可予定者数9,098人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数169人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,986人、特色選抜1,147人、スポーツ・文化芸術推薦選抜139人、一般選抜6,040人で、二次選抜94人であった。

4月10日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,266人で、募集定員の95.7%（昨年度96.2%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和5年度			令和4年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				13,901	13,976
募集定員 A		9,400	280	9,680	9,720
推薦選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,974	12	1,986	1,985
特色選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,147	-	1,147	1,160
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		139	-	139	135
一般選抜入学許可予定者数		5,888	152	6,040	6,117
二次選抜入学許可予定者数		89	5	94	94
総計	入学許可予定者総数	9,098	169	9,267	9,356
	実入学者数 B			9,266	9,354
	定員充足率 B/A(%)			95.7	96.2

※県内中学校卒業予定者数は、令和5年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、音楽学科、美術学科、文理探究学科、総合学科の6学科（昨年度5学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理	総合	
募集定員 A		9,680	6,360	400	800	520	80	80	40	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,193	788	200	360	260	32	-	34	-	30	-	489	
	受検者数 B	2,211	794	192	325	331	82	-	45	-	28	-	414	
	入学許可予定者数 C	1,986	738	179	311	252	32	-	34	-	28	-	412	
	合格率 C/B(%)	89.8	92.9	93.2	95.7	76.1	39.0	-	75.6	-	100	-	99.5	
特色選抜	募集枠（人数）	1,158	1,068	-	-	-	-	40	-	30	-	20	-	
	受検者数 D	3,777	3,649	-	-	-	-	81	-	19	-	28	-	
	入学許可予定者数 E	1,147	1,068	-	-	-	-	40	-	19	-	20	-	
	合格率 E/D(%)	30.4	29.3	-	-	-	-	49.4	-	100	-	71.4	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員	6,554	4,557	221	492	268	48	40	6	21	12	20	869
		確定出願者数	6,843	*3,967	234	452	280	60	**	**	0	**	**	813
		受検者数 F	6,828	*3,958	234	452	280	60	**	**	-	**	**	811
		入学許可予定者数 G	6,040	4,227	221	437	264	48	40	6	-	4	12	781
		合格率 G/F(%)	88.5	***	94.4	96.7	94.3	80.0	***	***	-	***	***	96.3
	二次選抜	二次選抜定員	515	330	-	57	4	-	-	-	21	8	8	87
		出願者数	98	*46	-	2	5	-	-	-	2	**	**	11
		受検者数 H	97	*46	-	2	5	-	-	-	2	**	**	11
		入学許可予定者数 I	94	74	-	2	4	-	-	-	2	0	1	11
		合格率 I/H(%)	96.9	***	-	100	80.0	-	-	-	100	***	***	100
総計	入学許可予定者数	9,267	6,107	400	750	520	80	80	40	21	32	33	1,204	
	実入学者数 J	9,266	6,106	400	750	520	80	80	40	21	32	33	1,204	
	過不足 J-A	-414	-254	0	-50	0	0	0	0	-19	-8	-7	-76	
	定員充足率(%)	95.7	96.0	100	93.8	100	100	100	100	52.5	80.0	82.5	94.1	
前年度定員充足率(%)		96.2	97.0	100	91.6	99.2	101	100	100	60.0	100	100	93.0	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、学力検査それぞれの追検査受検者を含む。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	112	12	128	20
		確定出願者数	540		260		100		137	
		受検者数	540		260		97		137	
		入学許可予定者数	349	40	224	6	93	4	125	12
	二次選抜	学力検査定員	15	-	-		19	8	4	8
		確定出願者数	16	-	-		15		1	
		受検者数	16	-	-		14		1	
		入学許可予定者数	15	-	-		14	0	0	1

3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数 6,888 人に対し、出願変更者数は 395 人（昨年度 444 人）で、出願変更率は 5.7%（昨年度 6.3%）となり、確定出願者数は 6,843 人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の 100% が最も高く（昨年度の最高は音楽学科の 20.0%）、次に、家庭学科の 9.1% であった。（表 5 参照）

表 5 学科別の出願変更者数

（昨年度）

項目		学力検査 定員	出願者数 A	出願変更者数 B	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	出願 変更者数	出願 変更率 (%)
学科	* 普通	3,729	4,013	242	6.0	3,967	240	6.0
	農業	221	235	17	7.2	234	36	14.0
	工業	492	454	37	8.1	452	24	5.9
	商業	268	276	14	5.1	280	16	5.9
	家庭	48	66	6	9.1	60	5	7.5
	音楽	21	2	2	100	0	1	20.0
	総合	869	813	28	3.4	813	37	4.5
学校 出願	普通・理数	404	547	30	5.5	540	27	4.9
	普通・体育	230	252	14	5.6	260	45	11.3
	普通・美術	124	91	2	2.2	100	9	7.2
	普通・文理	148	139	3	2.2	137	4	2.8
合計		6,554	6,888	395	5.7	6,843	444	6.3

* 普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では愛知高等学校の 1 校 1 科、定時制の課程では、大津清陵高等学校（夜間）の 1 校 1 科であった。

実技検査を実施した学校は、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の 2 校 2 科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

II 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し18人（昨年度9人）が入学許可予定者となり、0.45倍（昨年度0.23倍）の倍率となった。二次選抜では、3人（昨年度2人）が入学許可予定者となり、合計21人（昨年度11人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では178人の出願者（昨年度150人）に対して、178人（昨年度150人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、37人（昨年度35人）が入学許可予定者となり、合計215人（昨年度185人）が入学許可予定者となった。

（表6参照）

表6 募集定員，出願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	倍率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和5年度	単位制 転編入	40	18	18	0.45	0	3	3	21	-19
	通信制	320	178	178	0.56	0	37	37	215	-105

令和4年度	単位制 転編入	40	9	9	0.23	0	2	2	11	-29
	通信制	320	150	150	0.47	0	35	35	185	-135

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量のみみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、基礎的な英語を聞くことや読むことを通して他者の考えや文章の内容を正しく理解する力や、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語54.0点、数学45.7点、社会49.9点、理科54.3点、英語53.6点であった。

4 その他

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、新型コロナウイルス感染症にかかる令和5年度滋賀県立高等学校入学者選抜に関するガイドラインにおける受検可否の判断を見直すとともに、学力検査の追検査を実施し、受検機会を確保した。

令和5年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、言葉を正確に理解し適切に表現する基礎的な力をみるようにした。また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「問題量、文章量、内容が適切である」という意見が多く見られた。今年度より本文の表示に係る形式などを変更したことも、好評であった。

各設問については、□は、「本文に抽象的な表現や筆者の感性によるところが多く、もっと論理的な文章を用いた方が良い」といった意見があった。記述問題の難易度が高めであるという意見も見られた。△は、「作文の条件を満たせない解答が多かった」「条件をうまく把握できない生徒が多いようであった」という意見が見られた。◇については、「適切な難易度であった」「詩の出題は新鮮で、文語を含めた問題として面白い」という意見もある一方、「古典を出題すべきだ」といった意見も見られた。

3 解答の分析

全体を通して、基礎的・基本的な知識を問う問題は、概ね正答率は高かった。また本文内容に関する選択肢問題も比較的正答率が高かった。一方で記述式問題の正答率は低めであり、誤答例等の報告を見ると、要素不足により部分点を取るに留まる解答が多いようである。全ての記述問題に字数制限をかけたため、不慣れな生徒は必要な要素に言及できなかつたと考えられる。また、本文内の表現を条件に合わせて表現し直す問題等でも、条件を満たせていない解答が見られた。

□は、視覚を通して触覚的情報を感じ取ることについて書かれた文章や関連する資料を素材として、文脈を的確にとらえ内容を把握する力、複数の資料を比較し適切な情報を得る力、文章の要旨を的確にとらえ適切にまとめる力を見る問題であった。

空欄補充や、表現されている内容を選択肢で問う問題については正解率が高かったが、文章全体と部分の関係の把握や資料との比較等を行いながら内容を把握する力や、文脈の中における表現の意図を的確にとらえて適切にまとめる力を問う記述問題の正答率は低かった。文章構造を正確に把握し、全体と部分との関係について、必要に応じて適切にまとめる力を身に付けられるような学習活動が望まれる。

△は、言葉の働きについて説明された文章や資料を素材にして、文章や話の展開に即して内容をとらえる力、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈する力、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して表現する力を見る問題であった。

目的に応じて複数の情報を整理しながら、適切な情報を取り出す問題、および要求される条件を満たしながら自分の考えが伝わる文章になるように表現する問題の正答率が低かった。文章全体の主旨を捉えた上で、必要な情報を整理して的確な表現ができるように、構成や展開、表現に留意しながら文章を読む活動に取り組みつつ、語彙力の向上と豊かな表現力を身に付けるような学習活動が求められる。

◇は、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力、口語文法に関する知識、文語のきまりや韻文の内容を適切にとらえる力を見る問題であった。

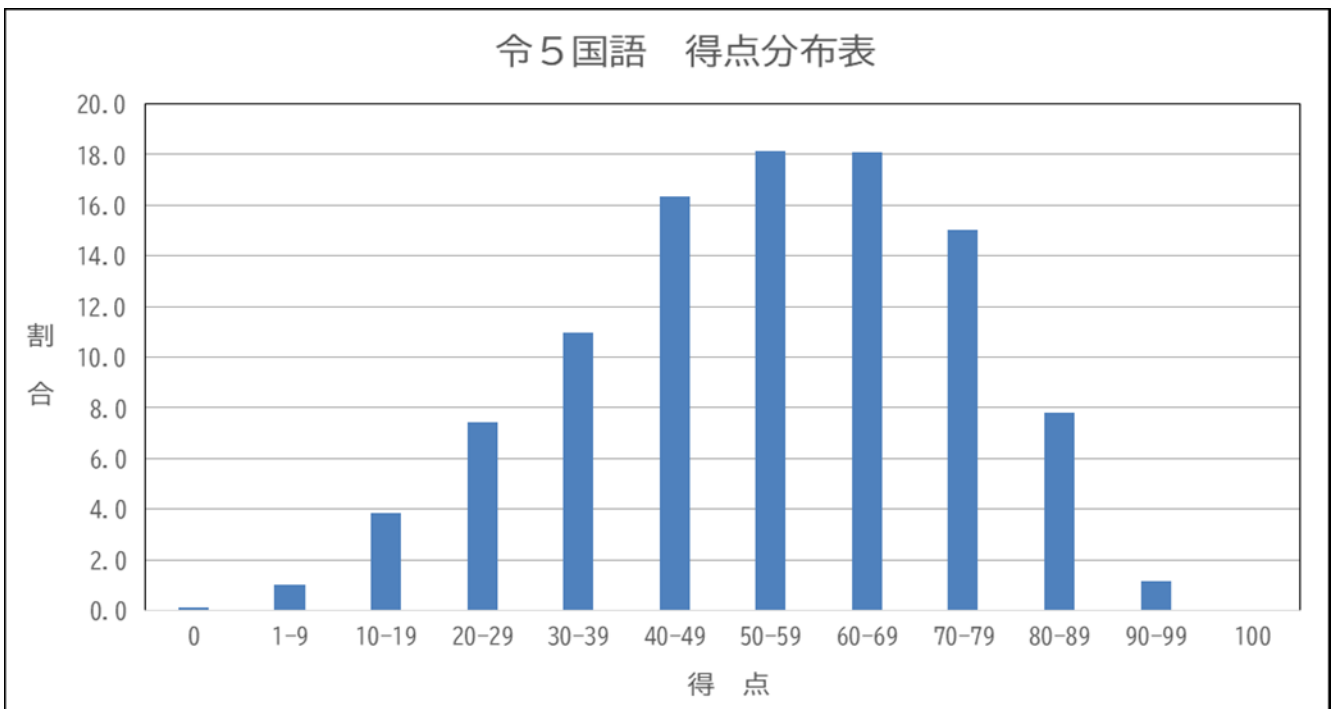
口語文法に関する問題、および韻文の内容について適切な解答を選択する問題の正答率がやや低い。学習の基盤となる知識および技能の充実を図るために、様々な種類の作品に触れることを通して、言語文化に親しむ活動が望まれる。

国 語

問題区分		正答率
一	1	95.8
	2	66.0
	3	75.3
	4	11.1
	5	16.1
二	1	44.3
	2	15.2
	3	65.6
	4	19.6

問題区分		正答率	
三	1	①	76.3
		②	88.5
		③	72.2
		④	83.0
		⑤	84.4
	2	①	79.1
		②	59.6
		③	87.7
		④	68.6
		⑤	62.5
	3	①	41.3
		②	47.9
	4	①	65.7
		②	71.4
		③	43.3

年度	平均点	標準偏差
令5 (100点満点)	54.0	19.6



令和5年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。また、数量や図形、関数などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「全体的に問題量・難易度ともに適切であった」「受検生自身の姿勢によって差がつく良問であった」などという意見があった。各設問については、「**1**は、基礎的・基本的な力をみるために適切な問題であった」「**2**は、作図の目的がはっきりしており作図の意図が読み取れる良問であった」「**3**は、難問ではないが、日々の学習の質が問われる良問であった」「**4**は、図形の性質が理解できているかどうかを問うのに、教科書レベルで非常に良い問題であった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、概ね理解できている。一方で、四則演算などの基礎的・基本的な知識および技能が身につけていない受検生も見られた。また、図形や関数の分野を中心に、複数の段階を経る必要がある問題や解に至る過程を記述する問題について、正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるだけでなく、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や実験などにより、数や図形の性質を見だし、見だした性質を発展させるような活動が必要である。そうした活動を通して知識および技能を相互に関連付けて体系的に学ばせることにより、題意を正確に読み取り数学的に表現する力や、習得した知識を活用する思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

1では、中学校3年間で学ぶ基礎的・基本的な知識および技能を問う問題を幅広く出題した。比較的に正答率が高く、基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できている。ただし、基礎的な内容を問う問題であっても、等式の変形や、立体の体積、データの活用分野については正答率が下がる。基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、処理する力の育成が望まれる。

2は、立体を題材にし、図形の基本的な性質や求積方法、図形の面積の関係を方程式を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。図形分野は全体的に正答率が低く、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

3は、関数 $y = ax^2$ のグラフを題材にし、関数についての基礎的・基本的な知識および技能と、座標平面上の線分の長さを数学的に表現し処理する力や、一次関数と関数 $y = ax^2$ の変域を相互に関連付けながら数学的に処理する力を問う問題であった。複数の関数を相互に関連付けて扱う必要がある問題の正答率が低く、正答に至るまでの複数の段階を、見通しをもって正確に処理していく力を育成することが望まれる。

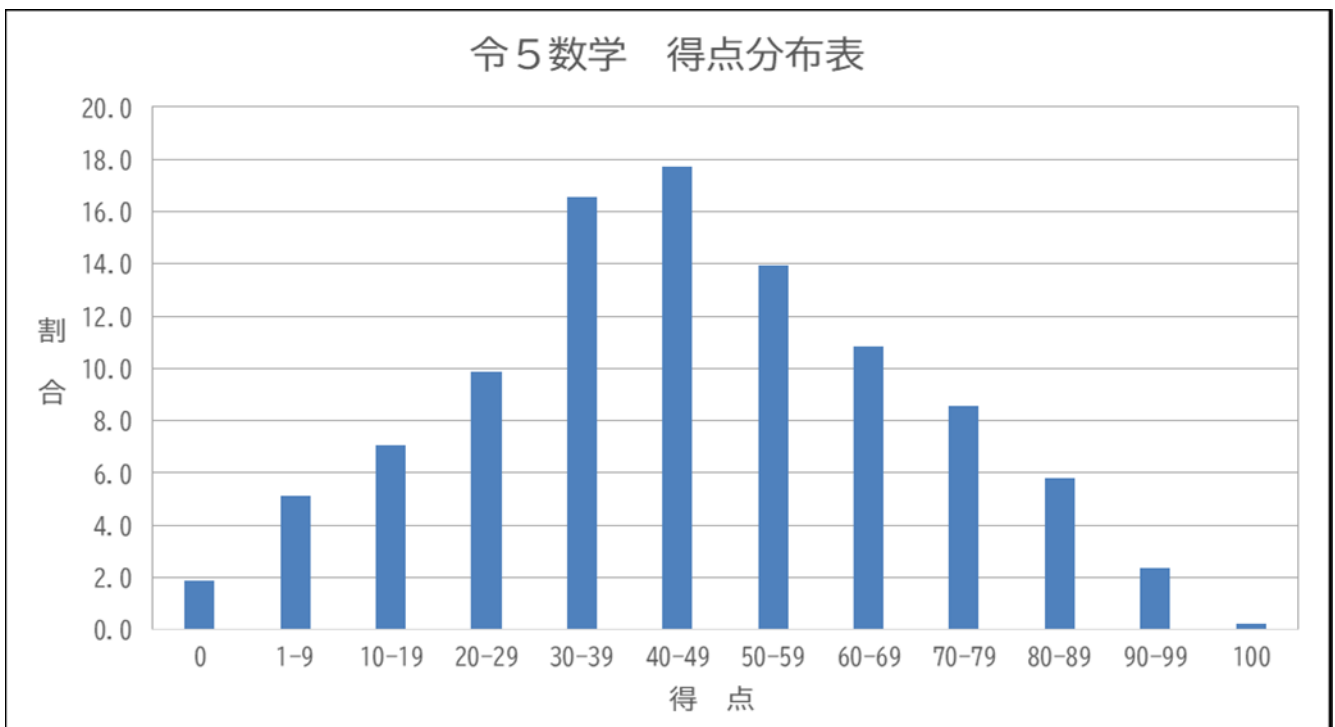
4は、平行線と比の性質や相似比と面積比の性質などを活用し、数学的に表現する力を問う問題であった。複数の手順を見通しを持って適切に処理していく力が必要な問題であり、正答率が低かった。習得した知識および技能をそのまま活用するだけでなく、題意を正確に読み取り、適切な知識を活用して粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力を育成することが望まれる。

数 学

問題区分		正答率
1	(1)	91.5
	(2)	82.7
	(3)	58.5
	(4)	72.6
	(5)	78.1
	(6)	75.4
	(7)	44.2
	(8)	55.3
	(9)	66.0

問題区分		正答率
2	(1)	19.7
	(2)	16.0
	(3) 過程	12.9
	(3) 解答	28.5
	(4)	34.8
3	(1)	48.5
	(2) 解答	69.5
	(2) グラフ	56.3
	(3)	15.9
	(4) b	5.1
	(4) c	5.1
4	(1)	2.1
	(2) ①	25.7
	(2) ②	13.8

年度	平均点	標準偏差
令5(100点満点)	45.7	23.0



令和5年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に定められた内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「『知識・技能』の設問と『思考・判断・表現』の設問のバランスがよく考えられている」、「資料が豊富に使用され、読解力や思考力を問う問題が多かった」などの意見があった。設問については、「**1**の記述問題は、資料の読み解きと社会問題に対する関心をはかることができるものであった」、「**2**は資料を用いて歴史的事象と現代社会を関連付ける思考力が求められるものであった」、「**3**は現代における諸課題を取り上げながら、その解決策を適切に表現できる力を問うものであった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得は概ねできている。正答率が低い問題に共通するのは、知識や概念を組み合わせることで正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出したりして、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。図表やグラフから解答に必要な情報を正確に読み取り情報を取捨選択する力や、読み取った情報と蓄積した知識から判断し表現する力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識および技能を正確に身に付けたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成することが望まれる。

1は、グラフや地図などの資料をもとに、世界や日本の地理的特色についての理解や、地図の読み取り技能などをみるとともに、地域の環境保全の取組について、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。工業や地図の読み取りについての基本的な知識や技能をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、地理的、社会的事象を適切な形で表現する問題の正答率が低く、知識や資料から適切な情報を取り出し、文章にまとめる力を育成する必要がある。

2は、写真や表などの資料をもとに、古代から現代に至る各時代の産業や文化、国際関係についての理解をみるとともに、地球環境の課題の解決について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせることで答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育成することが望まれる。

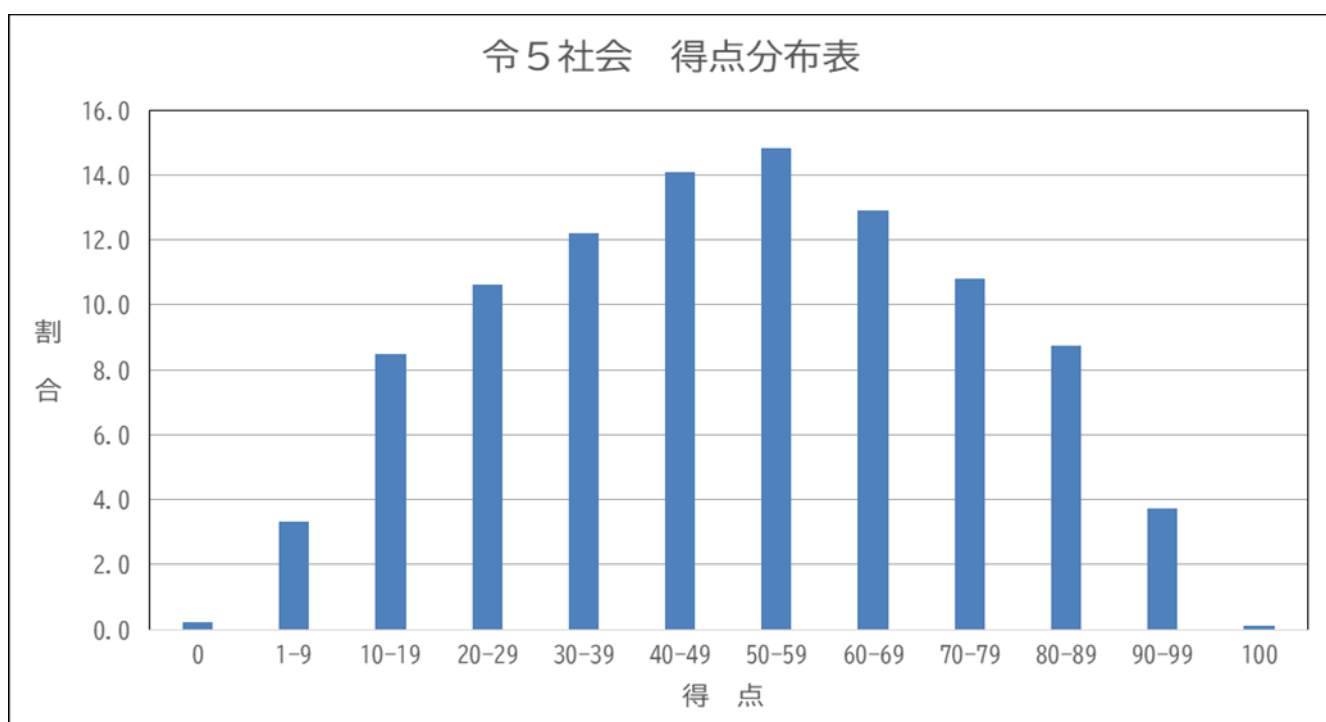
3は、図やグラフなどの資料をもとに、基本的人権や民主政治の仕組みについての理解をみるとともに、福祉の増大や貧困の解決のための取組などを、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を適切に文章にまとめる問題で正答率が低かった。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することが望まれる。

社 会

問題区分		正答率	
1	1	74.3	
	2	71.6	
	3	42.8	
	4	1つ目	71.3
		2つ目	41.9
	5	(1)	37.3
		(2)	40.9
(3)		17.0	

問題区分		正答率	
2	1	(1)	46.9
		(2)	24.4
		(3)	49.3
		(4)	45.0
		(5)	41.4
	2	(1)	74.8
		(2)	17.5
		(3)	29.8
		(4)	53.2
		(5)	25.8
3	1	(1)	34.7
		(2)	65.2
	2	(1)	48.8
		(2)	45.8
		(3)	64.6
	3	(1)	80.7
		(2)	77.2
		(3)	13.8

年度	平均点	標準偏差
令5 (100点満点)	49.9	23.6



令和5年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な知識を問う問題が多く、日頃の学習の積み重ねが重要である」「身近な題材をもとにした実験で科学的な探究心が伺える問題であった」などの意見があった。

設問については、「金属のイオン化傾向や、溶解度、電池の仕組みについて実験をもとに考えさせようとする出題であった」「静電気の発生について、電子の移動方向や電子のもつ電気の種類を理解している必要があり、理解度が結果に表れた」などの意見があった。

3 解答の分析

化学、物理、地学、生物の各分野の基本的な知識や理解を問う問題については正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられる。また、自然の仕組みやはたらきについて理解を問う問題についても正答率が高かった。一方、実験や観察の結果を科学的に考察し説明することを求める問題については正答率が低かった。自然の事物や現象について、原因と結果を明らかにし論理的に表現できるようにする必要がある。自然の事物・現象を理解し科学的な思考力や判断力、表現力を育成するためには、身の回りの事物・現象に興味や疑問をもち、目的意識をもって主体的に観察や実験を行うことが大切である。

①は、電解質水溶液と金属の化学変化やダニエル電池の実験を通して、電池の仕組みについての理解をみる問題であった。水溶液とイオンの基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、水溶液中を移動するイオンの種類と向きを説明する問題では正答率が低かった。イオンの動きについて、モデルを用いて考察する学習活動を充実し、電流の流れを理解する力の育成が望まれる。

②は、静電気と電流の性質を調べる実験を通して、帯電した物体に働く力や静電気の起こる仕組み、放電現象についての理解をみる問題であった。帯電した物体に働く力について基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、物体が帯電する仕組みを、電子の移動により説明する問題では正答率がやや低かった。帯電や電流が流れる現象について、電子の移動と関連付けて理解することが望まれる。

③は、身近な岩石やマグマの性質についての調べ学習を通して、岩石の成因や性質についての理解をみる問題であった。岩石やマグマの性質について基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、岩石のでき方を説明する問題では正答率が低かった。岩石の成因を堆積環境と関連付けて理解し、説明できる表現力の育成が望まれる。

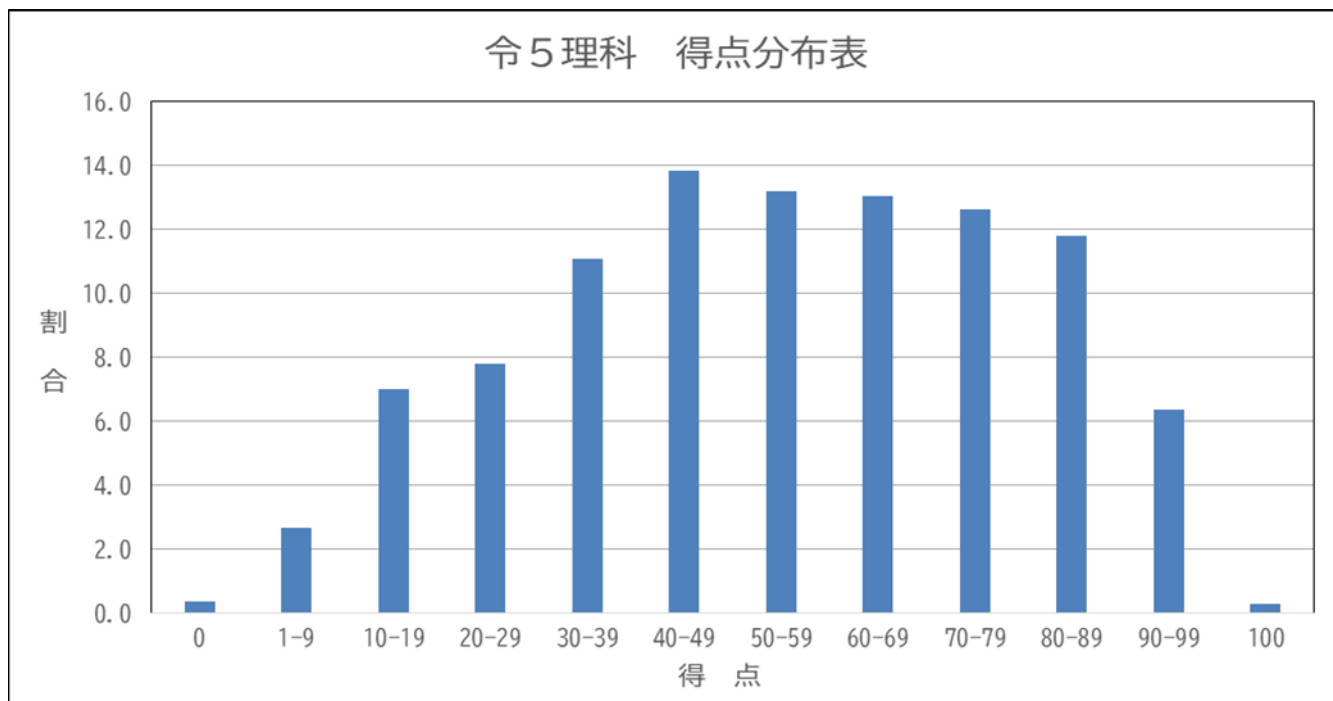
④は、ピーマンの果実を使った観察、実験を通して、光合成や実験器具の正しい使い方についての理解をみる問題であった。顕微鏡の使い方の基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、実験結果をもとに、緑色のピーマンが光合成していると判断できる理由を説明する問題についてはやや正答率が低かった。空気中の二酸化炭素の量とBTB溶液の色の変化を関連付けて理解し、結果を文章で説明できる表現力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率
1	1	77.2
	2	27.3
	3	62.7
	4	28.6
	5	(1) 64.8 (2) 7.4
2	1	60.7
	2	34.7
	3	25.1
	4	42.4
	5	64.5

問題区分		正答率
3	1	53.1
	2	27.9
	3	81.8
	4	67.2
	5	9.0
4	1	62.8
	2	76.8
	3	58.5
	4	17.1
	5	ウ 73.8 カ 68.7

年度	平均点	標準偏差
令5(100点満点)	54.3	24.4



令和5年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、聞いたり読んだりした他者の考えや文章の内容を理解する力や、理解した内容や自分の考えを表現したりする力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生にとって身近な話題が多く、取り組みやすい問題だった」「英語の知識を問う問題と論理力や思考力を求めるバランスの取れた問題」などの意見があった。

設問については、「滋賀県的话题をグローバルな話題へと広げ、問題に深みがあった」「要点をスライドでまとめたり、文章の書き手の意図について理解を求めたりする問題があり、文脈に応じて、情報を適切に読み取る力が必要になる」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、日常的な話題に関する英文を聞いたり、読んだりして必要な情報をつかむ力や概要を把握する問題の正答率は高かった。聞いたり、読んだりすることについて、学習した語彙や表現等に関する知識を活用できる基礎的な力が身につけており、中学校の授業における技能面での指導の成果が表れている。一方で、聞いたことや読んだことについて、自分の考えを書いたり、短い英語でまとめたりする問題の正答率は低かった。情報を整理しながら考えを形成し、英語で表現したり伝え合ったりしながら、思考力、判断力、表現力等を高めるような学習の機会を、継続的に用意することが望まれる。

①の聞き取り問題では、日常生活や身近な事柄について、必要な情報を正確に聞き取る問題や、目的や場面、状況等に応じて話し手が伝える内容の要点を捉える問題の正答率が概ね良好な結果であった。一方で、聞いたことを基にして書くという技能統合型の問題の正答率はやや低いことから、聞いたことについて、書いたり、話したりするというような領域統合型の言語活動の充実が望まれる。

②は、将来の夢を題材としたやり取りにおいて、アンケート結果の表から情報を正確に読み取ったり、話の流れを適切に捉えたりする力について問う問題であった。英文を理解し、グラフから必要な情報を読み取る問題については、正答率が高かった。一方で、文意に即して適切な語句を補充する問題の正答率は低かった。話の展開や段落ごとの関係性を意識しながら英文を読むような活動の充実が望まれる。

③は、県内での自転車旅行を題材とした日常的・社会的な話題について、話のあらすじを読み取ったり、把握した内容を基に、簡単な語句や表現を用いて表現したりする力を問う問題であった。必要な情報を読み取ったり、文章の要点を捉えたり問題の正答率が高かった。一方で、読み取った複数の情報を整理し、英語で書く問題の正答率は低かった。読み取った内容を数文でまとめたり、内容についての意見やその理由などを話したり、書いたりする言語活動の充実が望まれる。

④は、「私が大切にしているもの」をテーマとして、まとまりのある内容を英語で表現する力をみる問題であった。正答率は低く、日ごろから事実や自分の考え、気持ち、理由などを簡単な語句や文を用いて話したり、書いたりする言語活動が望まれる。

英 語

問題区分		正答率	
1	その1	1	89.8
		2	73.8
		3	49.5
		4	43.9
	その2	57.2	
	その3	1	40.5
		2	64.8
		3	67.6
		4	41.1
	2	1	イ
オ			65.7
2		54.6	
3		31.3	
4		49.3	
5		41.8	
6		67.3	
7		30.3	

問題区分		正答率	
3	1	(1)	32.2
		(2)	47.5
	2	39.7	
	3	54.2	
	4	80.5	
	5	63.6	
6	④	20.8	
	⑤	9.1	
4		24.8	

年度	平均点	標準偏差
令5(100点満点)	53.6	27.1

